令和５年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和５年４月 18 日(火)に中学校３年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の本校の結果を分析し、以下のようにまとめました。今後の改善に向けて取り組んでいきます。

国語

◇良かったところ

・平均正答率の府や全国との差は、昨年度よりも大幅に縮んでいる。

・「生徒質問紙」のいくつかの質問において、肯定的な回答の割合が高かった。

・「国語の授業の内容はよく分かりますか。」→82.1%(全国・府よりも高い)

◇課題

・記述式の無解答率が高く、また文章を読み取る問題形式の正答率が低かった。

◇今後に向けて

・文章の読解力と書く力が同時に問われる問題に対応する力をつけさせたい。

数学

◇良かったところ

・8の関数についての問題について、無回答率は昨年度が 36.1%に対して，今年度は 18.6%と減っている。問題に前向きに取り組む姿勢が見られる。

◇課題

・反比例の問題では，反比例の意味を理解できていないのではなく、問題の趣旨が読みとれていない部分が多いと考えられる。「証明」は、無回答率が非常に多い。

◇今後に向けて

・「生徒質問紙」の質問に対して、半数以上が最後まで取り組む努力をみせたが、残りの４割の生徒が問題文が長いと読まずにあきらめてしまい、出題の趣旨が読みとれず、解答することを途中であきらめてしまっているのではないかと考えられる。１年生のうちから、長文の問題に慣れさせておく必要がある。

・今まで学んだことを活かせる力を身につけさせたい。

英語

◇良かったところ

・無回答率は「聞くこと」においては０%だった。

・生徒質問紙のいくつかの質問において、肯定的な回答の割合が高かった。

「学校の学習以外に日常的に英語を使う機会」

「即興で自分の気持ちや考えなどを英語で伝え合う活動が行われていた」など。

◇課題

・すべての領域（４技能「聞く」「読む」「話す」「書く」５領域「話す」やりとり・発表）で大阪府・全国の平均正答率を下回っている。特に「話すこと」・「書くこと」において苦手意識がある。

◇今後に向けて

・目的・場面・条件に応じた表現を判断し、選択する力を養うために、文法などの形式だけにとらわれず、目的・場面・条件に応じて「使う」ことを意識した演習を授業内で増やす。

・文章を論理的に構成する力や、つなぎ言葉を工夫し自分の知識を組み合わせてまとまりのある文を書く練習を増やす。

学力担当より

・〈質問 7〉将来や夢の目標を持っていますか。

肯定的・・・62.6%　否定的・・・36.5%

→将来への展望を持って学習に励んでいる生徒の数をさらに増やしたい。中学校生活全体を通して、夢や目標を持てるよう、キャリア教育を進めていく。

・〈質問 13〉　自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

肯定的・・・77.2%　否定的・・・22.8%

→班活動重視の結果か。対話的で深い学びにつながっているのではないか。

・〈質問 16〉　家で自分で計画を立てて勉強をしているか。

肯定的・・・47.2%　否定的・・・52.8%

・〈質問 17〉　学校の授業以外の、家庭での学習時間（平日）

3H 以上・・・12.4%　2～3H 以上・・・30.9%　1～2H 以上・・・23.6%

0.5～1H 以上・・・11.2%　0.5H 以下・・・9%　0H・・・12.9%

→計画を立てられずに、何をしたらいいかわからず学習できない生徒や、進路への展望が持てず学習が進まない生徒が多いように思われる。

学校として取組みを工夫していきたい。

・〈質問 20〉　１日当たりの授業以外の読書の時間は？

2H 以上・・・3.4%　1～2H・・・8.6%　30m～1H・・・13.7%

10m～30m・・・20.2%　10m 以下・・・17.2%　全くなし・・・36.9%

→日常の生活様式の変化から読書量が減少している。

各教科の文章問題の苦手意識と読書量には相関があるのではないだろうか。少なくとも学校での朝読の時間を大切にし、さらなる取り組みを充実させたい。